

小・中 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

教育課題

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	1
1	研究構想図	2
IV	研究の内容	3
1	基礎研究	3
2	調査研究	3
3	実践研究（レポート報告）	4
4	実践研究（検証授業）	9
V	研究の成果と課題	24

研究主題

いじめ問題に対応できる学級・学校を目指して

～自尊感情を高める指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

いじめは、児童・生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、生命や身体に危険を生じさせるおそれがあるものである。近年も、いじめによって、児童・生徒が自ら命を絶つという事態が発生しており、「いじめ問題」は、学校が対応すべき最重要課題の一つとなっている。

本部会では、東京都教育委員会の方針を踏まえ、「いじめ問題に対応できる学級・学校を目指して」を研究主題に設定し、いじめの未然防止のための重要な視点として、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めていく指導の工夫について研究を行うこととした。

II 研究の視点

本研究では、「いじめ問題に対応できる力を育てるためにーいじめ防止教育プログラムー（平成 26 年 2 月 東京都教育委員会）」（以下、「いじめ防止教育プログラム」）を活用して、実践研究（道徳、学級活動等）を行い、研究仮説の検証・改善を図った。

その中でも、自尊感情を高める指導の工夫に焦点をあてて研究を進めることとした。その理由として、自尊感情の定義や自尊感情と関連する要因の理解、児童・生徒の自尊感情に関する実態把握、各教科等の指導で取り組む際のポイントを参考にすることが、いじめ問題に対応できる学級・学校へつながると考えたからである。実践に当たって、「自信 やる気 確かな自我を育てるために 子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【基礎編】（平成 23 年 東京都教職員研修センター）」「自信 やる気 確かな自我を育てるために 子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【発展編】（平成 24 年 東京都教職員研修センター）」（以下、「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料」）なども活用した。

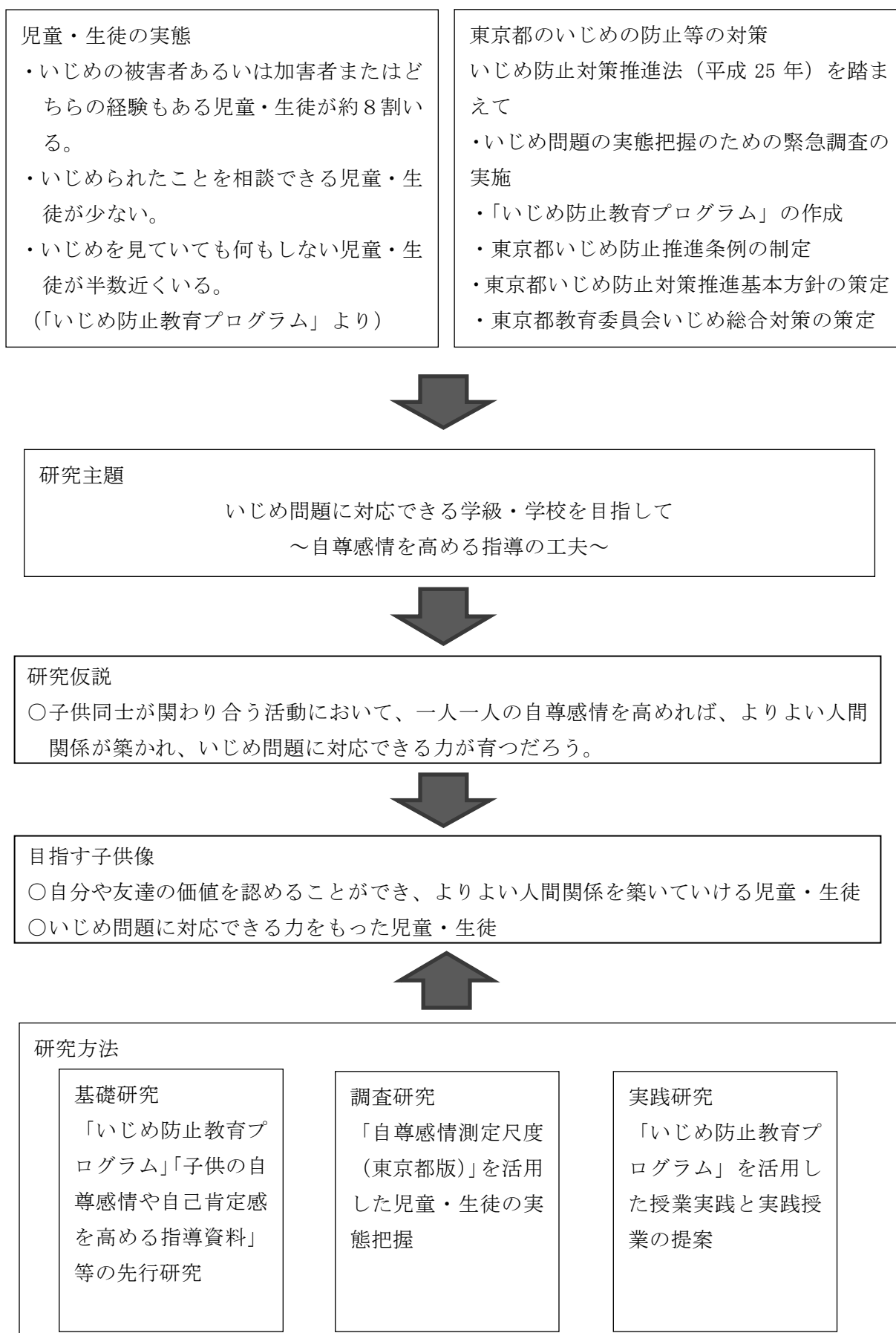
III 研究仮説

東京都教育委員会では、「自尊感情とは、自分のできることできないことなど全ての要素を包括した意味での『自分』を他者との関わり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在として捉える気持ち」また、「自己肯定感とは、自分に対する評価を行う際に、自分のよさを肯定的に認める感情」と定義している。

自己理解を深め、自己肯定感を高め、コミュニケーション力を身に付ければ、いじめに関して当事者意識をもって行動することができるようになる想定した。

そこで、「子供同士が関わり合う活動において、一人一人の自尊感情を高めれば、よりよい人間関係が築かれ、いじめ問題に対応できる力が育つだろう」という研究仮説を設定した。

1 研究構想図



IV 研究の内容

1 基礎研究

本研究では、いじめ問題への取組に当たって、東京都教育委員会が作成した「いじめ防止教育プログラム」の内容や作成の背景等について共通理解を図った。

研究仮説で述べたように、いじめの未然防止のためには、子供の自尊感情を高めることが重要であることに着目し、東京都教職員研修センターが作成した「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【基礎編】【発展編】」を通して、自尊感情についての定義や自尊感情を高めるための視点、自尊感情を構成する因子について共通理解を図った。実践研究を進めていくに当たっては、「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【発展編】」の「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」(表1)に着目し、各教科等のねらいとともに、それぞれの活動の中に、表1に示す観点のうち関連するものを指導案に記載した。

また、文部科学省が考えるいじめの未然防止に対する有効な取組としての「居場所づくり」や「絆づくり」については、国立教育政策研究所が作成した「生徒指導リーフ いじめの未然防止Ⅰ・Ⅱ」を活用して研究を進めた。自己肯定感の定義について調べるために、国立教育政策研究所が作成した「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(中学校編)」を活用し、東京都教育委員会による「自尊感情」や「自己肯定感」の定義に結び付けながら理解を深めた。

表1 「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」

参考：「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【発展編】」P88

3つの観点	小観点
A 自己評価・自己受容 自分のよさを実感し、自分を肯定的に認める	①成果の発揮 ②相互理解 ③努力の成果 ④よさの気付き
B 関係の中での自己 多様な人との関わりを通して、自分が周りの人の役に立っていることや周りの人の存在の大切さに気付く	①他者理解 ②理解者の存在の気付き ③貢献意欲 ④支えの気付き ⑤きまりの遵守
C 自己主張・自己決定 今の自分を受け止め、自分の可能性に気付く	①自己信念の遂行意欲 ②個性の認知 ③可能性の認知

2 調査研究

「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料」によると、全ての児童・生徒が、認められている、満たされているという思いを抱くことができる機会を提供することで、児童・生徒の自尊感情が高まる。このような取組を意図的、計画的に続けることで、妬みや嫉妬などいじめにつながりやすい感情を減らすことができる。

また、自尊感情や自己肯定感が高い傾向のある子供は、進路の目標が明確で、友人関係が良好であることが分かった。一方で、学習への意欲が低い子供や、問題行動が見られる子供は、自尊感情や自己肯定感が低い傾向であることが分かった。自分の存在を受け入れてもらえない、大切にされない、いじめられるなどの経験をした子供たちの自尊感情は低い傾向がある。

そこで、調査研究では、部員各自が担当する学級等で授業研究を実施する前に、「自尊感情測定尺度（東京都版）『自己評価シート』」を基に、児童・生徒の実態を把握することにした。

「自己評価シート」の調査結果について、個や集団における自尊感情のタイプ別の傾向や特徴を見ることができる。また、個人や集団の結果は、個別の指導の資料にするとともに、学級経営や学年経営における指導の改善の視点を明確にすることができると考えた。

表2 自己評価シート「自尊感情測定尺度表」

小学生【第4学年～第6学年】・中学生・高校生用

【自尊感情測定尺度（東京都版）】

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらかといえばあてはまる」場合は3、

「どちらかというにあてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

<記入例>

例) 冬よりも秋が好きである

あてはまる どちらかというにあてはまる どちらかというにあてはまらない 4 3 2 1

No	項 目
1	私は今の自分に満足している
2	人の意見を素直に聞くことができる
3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
4	私は自分のことが好きである
5	私は人のために力を尽くしたい
6	自分の中には様々な可能性がある
7	自分はダメな人間だと思うことがある
8	私はほかの人の気持ちになることができる
9	私は自分の判断や行動を信じていることができる
10	私は自分という存在を大切に思える
11	私には自分のことを理解してくれる人がいる
12	私は自分の長所も短所もよく分かっている
13	私は今の自分は嫌いだ
14	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組む
15	私には誰にも負けないもの(こと)がある
16	自分には良いところがある
17	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
18	私は自分のことは自分で決めたいと思う
19	自分は誰の役にも立っていないと思う
20	私には自分のことを必要としてくれる人がいる
21	私は自分の個性を大事にしたい
22	私は人と同じくらい価値のある人間である

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

4 3 2 1

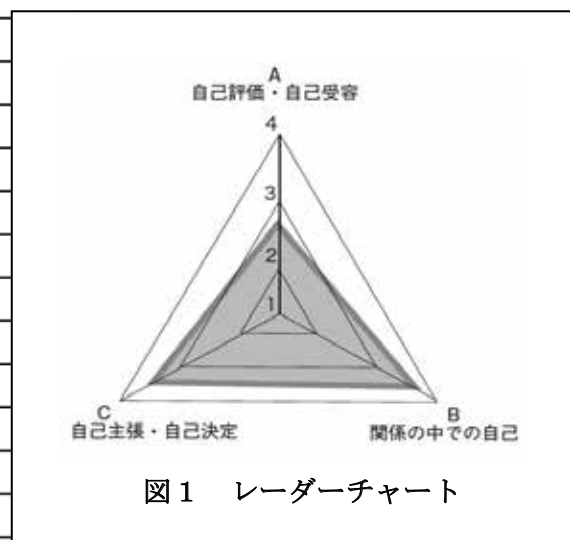


図1 レーダーチャート

参考：自尊感情測定尺度（東京都版）「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料」

3 実践研究（レポート報告）

実践研究では、DVD「STOP! いじめ あなたは大丈夫!」（東京都教育委員会 平成25年3月制作）を視聴した。また、「学習プログラム」を活用した授業実践を行うとともに、仮説との関連や指導上の留意点について、実践報告にまとめた。

いじめ防止のための「学習プログラム」実践報告①

- 1 プログラム 小学校低学年 いじめを生まない望ましい人間関係の構築
- 2 領域・単元 学級活動（2）ーウ 望ましい人間関係の形成
コミュニケーション力を高めよう
- 3 実施学年 小学校第2学年
- 4 本時の視点
 - （1）学級活動としてのねらい
○仲よく助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習にすすんで取り組もうとする態度を育成する。
 - （2）研究のねらい
○話し合い活動を通して、他者を理解し、いじめを生まない人間関係を築く実践力の基礎を培う。
- 5 本実践の成果と課題
 - （1）研究仮説との関連
○コミュニケーション力を身に付ける視点から、自分のことを話すだけではなく、相手の話をしっかり聞くことも大切であることを理解する。
 - （2）留意した点
○楽しんで聞いたり話したりできるような雰囲気作りをした。
○話す人役と聞く人役の区別をはっきりさせ、きちんと自覚させた。
○早く話し終わってしまう場合は、もう一度丁寧に、内容を付け加えて話すように促したり、聞く人役の児童に質問させたりした。
○話すことが苦手な児童もいるため、教師が例を示すようにした。
 - （3）成果と課題
○すぐに話し合いを始めるのではなく、「心あかるく」の中の「友達といっしょにいて元気が出たことを書こう」という活動に取り組むことで「友達のことをもっとしろう」という話し合い活動への意識付けができた。
○二人組で「友達の話を聞く」というだけでなく、その聞いた話を別の児童に伝えるという活動が子供の意欲を高めた。相手の話を真剣に聞き、その内容を正確に伝えようとする姿が見られた。
○聞く児童に目的意識があり、しっかり聞いてくれることで、話す方も安心して話すことができた。話すことに苦手意識がある児童がより安心して活動に取り組めるように、話すテーマについては事前に伝えておいた方がよいことが分かった。
○自分のことを話すことや、相手の話を聞くことが互いを理解するうえで、大切なことであると実感するためには、様々なテーマを設けて継続して行っていくことが必要である。

いじめ防止のための「学習プログラム」 実践報告②

1 プログラム 小学校中学年 いじめを傍観しない基盤づくり

2 領域・単元 学級活動（２）ーウ 望ましい人間関係の形成
いじめのない、楽しいクラスをつくろう

3 実施学年 小学校第４学年

4 本時の視点

（１）学級活動としてのねらい

○協力し合って楽しい学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度を育成する。

（２）研究のねらい

○いじめに関するDVDを視聴し、話し合い活動を通して、自分の身の回りでいじめが起こったらどのように行動するかを考える。

5 本実践の成果と課題

（１）研究仮説との関連

○子供同士が関わり合う力を育てる視点から、いじめのない楽しい学級、一人一人のよさが伸ばされる学級をつくるための具体的な方法を考えた。

（２）留意した点

○DVDの視聴から、いじめる側、いじめられる側、見ている側の気持ちを考えさせるようにした。

○いじめを見て見ぬふりしないためにどうすればよいかを児童が主体的に考えられるようにした。

○いじめを経験した児童に対する配慮が必要である。

（３）成果と課題

○DVDの視聴から、いじめの場面を見て気付くことができた。それぞれの立場（いじめている側、いじめられている側、見ている側）で考えることができた。

○「自分の身の回りでいじめが起こったらどのように行動するか」との問いに「いじめている人に勇気をもって注意する」「自分の力でどうにもならなそうなときは、先生や大人に助けてもらう」など、具体的な意見が出てきた。

○いじめのない学級、一人一人のよさが伸ばせる学級にするためにはという話し合いの中で「やっぱりいじめは許さないという気持ちでいる」「隠し事をしないで、伝えたいことははっきりと話し合う」「友達のよいところもそうでないところも見られるようにする」などの意見が出された。

○いじめ問題には様々な例があるので、継続的に事例を取り上げていくことが必要である。

いじめ防止のための「学習プログラム」 実践報告③

- 1 プログラム 小学校高学年 いじめを傍観しない基盤づくり
- 2 領域・単元 学級活動（２）ーウ 望ましい人間関係の形成
いじめのない、楽しいクラスをつくろう
- 3 実施学年 小学校第６学年
- 4 本時の視点
 - （１）学級活動としてのねらい
 - 信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度を育成する。
 - （２）研究のねらい
 - いじめに関するDVDを視聴し、話し合い活動を通して、自分の身の回りでいじめが起こったときにどのように対応するかを考える。
- 5 本実践の成果と課題
 - （１）研究仮説との関連
 - 子供同士が関わり合う力を育てる視点から、自分のよさが生かせる、伸ばせる学級づくりに向け、何ができるか具体的な方法を考えた。
 - （２）留意した点
 - 学級の実態に応じて、個人で考えさせたり、小グループや学級全体で話し合わせたりするなど適切に対応した。
 - DVDのストーリーを振り返り、どのような学級だったらいじめを未然に防げるか、深刻にならずにすむのか考えさせた。
 - いじめを見て見ぬふりをしないためにどうすればよいか、児童が主体的に考えられるように配慮した。
 - （３）成果と課題
 - DVDの視聴から、自分の経験を踏まえながら「いじめられている側」「いじめている側」「周囲の友達」という３つの立場について理解を深めることができた。
 - 「どのような学級だったらいじめが起こらないか」また「自分ならどうするか」という発問に対し、学級全員が発言し、「助け合う」「お互いを大切に思う」という感情面での言葉以上に、「友達同士で話し合う」「友達に声をかける」「悪口・嫌がることを言わない」「一緒に遊ぶ」「相手の気持ちを考える」など具体的な行動や言葉が多く出ていた。
 - 高学年でもDVD視聴を取り入れたことで、登場人物の感情やいじめの背景などを理解し、いじめを客観視することができた。高学年の発達段階を踏まえ、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）第四条を提示することで、いじめ問題に対して社会全体で取り組んでいる問題であるという認識を深めることができた。
 - 同じような学習プログラムを定期的、継続的に行うことが重要である。またその授業で出てきた言葉や意見を今後生かしていく手だてが必要である。

いじめ防止のための「学習プログラム」 実践報告④

- 1 プログラム **中学校** いじめを生まないための互いの個性の理解を参考に実践
- 2 領域・単元 学級活動（２）ーイ 自己及び他者の個性の理解と尊重
「自分らしさ」と友達の「その人らしさ」を探そう
- 3 実施学年 中学校第１学年

4 本時の視点

（１）特別活動としてのねらい

○学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

（２）研究のねらい

○友達と意見を交換し合うことを通して他人の価値観を知り、さらに自己理解を深め、自他を認め合う関係を築く。

5 本実践の成果と課題

（１）研究仮説との関連

○子供同士が関わり合う活動を通して、他人をよく知り、お互いの情報交換の中で、生徒一人一人に自他のよさを認識させ、自己理解を図ることができた。

（２）留意した点

○他人の評価・意見に素直に耳を傾け、自分を見つめることが自己の成長につながることを繰り返し指導した。

○「自分も他人も知っている自分」「自分は知っているけれど他人は知らない自分」「自分は知らないが他人は知っている自分」を知り、それを踏まえて「自分も他人も知らない自分」（未来の自分）を意識させた。

（３）成果と課題

○学級で発表すること、発表を聞くことにより、自他を認め合う機会をもつことができた。

○お互いの情報交換の中で、生徒一人一人が自他のよさを認識することで、自己理解・他者理解を深めることができ、学校生活において積極的に他者と関わろうとする態度が見られるようになった。

○自分を知ってもらうことの楽しさを感じさせる活動を多く取り入れ、学級という社会集団の一員であることへの意識を深めることができるように継続的に指導を続けることが必要である。

4 実践研究（検証授業）

検証授業①

第1学年 道徳学習指導案

- 1 主題名「いじめのない 楽しいクラスをつくろう」 いじめを傍観しない基盤づくり
2－（3）友情

2 主題設定の理由

- ・ いじめは相手の心や体を傷付ける行為であることを理解させるとともに、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬふりしないための実践力の基礎を培う。
- ・ 自分に自信をもち、他者の意見を認め合う学級の素地を作る。

3 研究主題との関連

（1）児童の実態

7月に実施した「自尊感情測定尺度（東京都版）『自己評価シート』」において、本学級は、全体で【A自己評価・自己受容】（2.85）、【B関係の中での自己】（2.97）、【C自己主張・自己決定】（2.99）のどの項目においても3.0を下回る数値である。それぞれのバランスは悪くないが、全体の数値は同時期に実施した他の学級と比較するとやや低い数値である。

以上のことから、本単元においては、他人とのつながりを考え、よりよい集団を目指すためにはどのようにすればよいかを考えることにより、【B関係の中での自己】を高めながら、全体を高めることを目指す。

（2）具体的な手だて

ア 学習過程の工夫

本活動は、「いじめ防止教育プログラム」（P26、P27）「学習プログラム」の実践例を参考に行う。小学校第1学年1学期に、いじめは相手の心や体を傷付ける許されない行為であるということ、そのためにどのような学級にすることが望ましいのかを考えさせる。

よりよい人間関係を築くためには、自分に自信をもっており、他者を受け入れる寛容な態度があり、集団がそのような雰囲気であることが不可欠である。そのために、学級づくりでは、まず、自分の意見を堂々と述べられること、他者の意見をじっくりと聞くということをしっかりと身に付けさせる。そして、お互いの意見を認め合うことができる集団づくりに取り組むことが重要である。そのことから、【B関係の中での自己】が高められるようにした。

イ 資料活用の工夫

本活動では、「心あかるく」の第一章「先人の言葉に学ぶ」（くりかえし 声に出して読み、自分のものにしていきましょう）の2つの詩、「ありがとう」と「ともだち」の範読から行い、温かい人間関係について触れた後、「いじめ防止教育プログラム」（P110）【いじめのイラスト①】のイラストを見て、考えたことを発表する。

多くの意見を引き出し、どの意見も認め取り扱いながら、いじめはしてはいけないことであり、もし周りで起こっていたら注意をする、大人に知らせるということが大切で

あるということを深く意識付けしたい。これによって、【B関係の中での自己】が高められるようにした。

4 本時の学習

(1) 道徳としてのねらい

- ・イラストを見て気が付いたことを発表し、もし自分の周りで同じようなことが起こっていたらどうするかを話し合う。

(2) 研究のねらい

- ・すてきな学級にするためにしていきたいことを考える。

(3) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点
導入	1 「心あかるく」第一章の範読活動を聞く。 ・ありがとう ・ともだち	・児童が詩の温かさを感じ取ることができるよう、教師が範読する。
	すてきな学級をつくろう	
展開	2 いじめに関するイラストを見て、考えたことを発表する。 ・いじわるをしている子がいる。 ・笑っている子がいる。 ・みているだけで注意をしていない子がいる。	・いじめのイラストを提示する。 ◆イラストを見て気が付いたことを発表している。 ☆どの意見も認め、尊重する。 【B関係の中での自己】 ・いじめている子、いじめられている子以外に、はやし立てたり、笑ったりしている子や、見ている子がいることに気付かせる。
	3 場面ごとに考える。 4 自分がこの教室にいたらどうするか、どのような行動をするか、考え、発表する。	◆どのような行動を取るかを発表している。 ☆挙げられたものを全員で声を出して言わせる。 【B関係の中での自己】
終末	5 楽しい学級をつくるためにどのようなことができるか、「心あかるく」のP111の「学級をすてきにするために、どんなことができるのか」を書き、発表する。	☆これからすてきな学級にするためにしていきたいことという観点で考えさせる。 【B関係の中での自己】 ◆書いたことを発表している。友達の意見を聞いている。

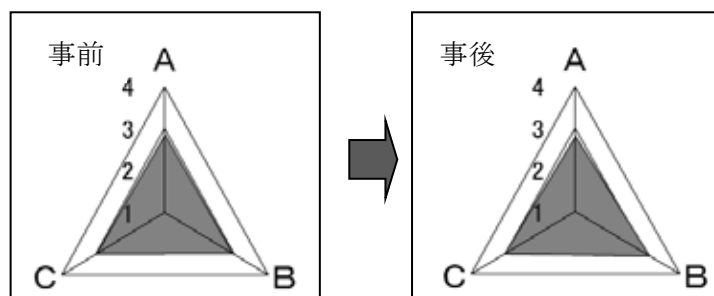
5 検証授業後の協議より

- ・いけないことをしている場合の注意や言い方についての確認ができた。
- ・いじめを見ている子供にもっと焦点化し、その子がどのような気持ちであるのか、どうして注意することができないのかなどを考えさせる機会を与えた方がよかった。
- ・もし自分がこの場にいたら、どのような気持ちかを考える場面を設けた方がよかった。

6 自己評価シートの変化

表3 検証授業①の自己評価シート回答結果

項目	事前	事後
A 自己評価・自己受容	2. 85	2. 81
B 関係の中での自己	2. 97	3. 13
C 自己主張・自己決定	2. 99	3. 04



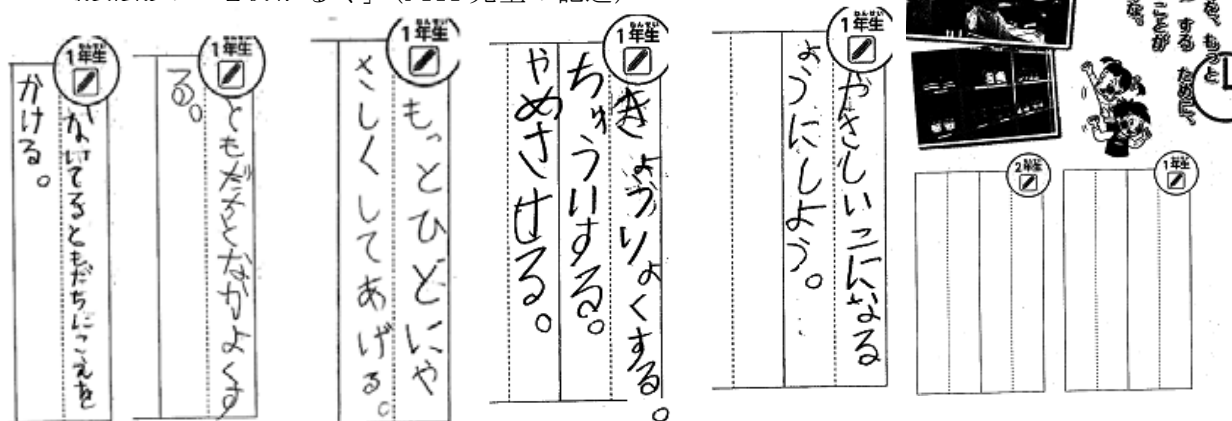
7 児童の変容 (数値：学級平均)

図2 検証授業①のレーダーチャート

- ・事後の調査では、【A自己評価・自己受容】は、ほぼ横ばいであったが、【B関係の中での自己】、【C自己主張・自己決定】は 3.0 を上回り、Bにおいては、0.16 ポイント上昇した。
- ・学級で、本実践をはじめ、お互いを認め合う活動を継続してきたことで【B関係の中での自己】が高まったのではないかと考えられる。
- ・【A自己評価・自己受容】は横ばいであったが、日常の活動からは、学年末になり自信をもって行動する姿が見られるようになってきた。

8 資料

授業後の「心あかるく」(P111 児童の記述)



1 単元名「ほいくえんのおともだちと なかよくなろう！」

2 単元の目標

- ・ 保育園児との交流活動を通して、園児に親しみをもつことができる。
- ・ 遊びやルールを工夫して、年下の園児と楽しく仲よく遊ぶことができる。
- ・ 保育園児との交流活動を通して、自分の成長に気付くことができる。

3 研究主題との関連

(1) 児童の実態

1 学期には、「いじめ防止教育プログラム」の「いじめのない、楽しいクラスをつくろう」を実践し、いじめは相手に心の傷を負わせるもので、絶対にしてはいけないということを学習した。日常の指導の中でもいじめは絶対に許さないことを伝えている。また、友達のよいところを探す活動を月に 1 回程度もち、互いのよいところを伝え合うことで自分のよいところを知る経験もしている。

また、1 学期の終わりに、「自尊感情測定尺度（東京都版）『自己評価シート』」を実施した。この結果を見ると、学級集団としては【A 自己評価・自己受容】、【B 関係の中での自己】、【C 自己主張・自己決定】の 3 観点がバランスの取れた正三角形をなしていた。しかし、個人を見てみると、三角形が小さく自尊感情が低かったり、バランスの悪い三角形をなして偏ったりしている。その偏りを見ると、C の数値が高い児童は 2 人で、自己中心的な負の部分が前面に出やすい傾向にあり、日常生活でも友達に対して強い態度で接することがある。また、それ以外の児童も、日頃の生活を観察していると、同じように友達に対して高圧的な態度で接する場面が見られる。

(2) 具体的な手だて

ア 役割分担の工夫

保育園児に招待状を作るという明確な目標に向かって、グループで協力して活動するために、一人一人の役割を意図的に設定した。自分にしかない役割をもつことで、児童が自分の仕事に責任をもって取り組み、招待状を作り上げたときに自分が役に立ったという成就感をもたせることで、【B 関係の中での自己 ③貢献意欲】(P3 表 1「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照)が高められるようにした。

イ 振り返りの工夫

本時のまとめで、グループの中で活躍した人は誰かを振り返る時間を作った。それぞれの項目で活躍した人を話し合う中で、自分が頑張って取り組んだことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにした。これによって、【B 関係の中での自己 ②理解者の存在の気付き】が高められるようにした。

4 本時の学習（9 時間扱いの 3 時間目）

(1) 生活科としてのねらい

- ・ 保育園児に喜んでもらえるように、友達と協力して招待状を作ろうとする。

(2) 研究のねらい

- ・グループ内で自分の役割を自覚し、グループに貢献しているという成就感をもつ。

(3) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点
導 入	1 本時のめあてを知る。	・お客さんを迎える意識をしっかりとせ、目的に向かって友達と協力することを押さえる。
	ほいくえんのおともだちに、しょうたいじょうをつくろう。	
展 開	2 招待状の作り方を知る。 ○生活班で活動する。 ○材料は、画用紙・色紙・のり ○色紙をちぎる。 ○友達と相談しながら、画用紙にちぎった色紙を貼る。	・「ぽかぽかな気持ち」が伝わるような招待状にすることを押さえる。 ・色紙は一人一色を担当し、どの色を使うかを友達と相談しながら作るようにする。
	3 招待状を作る。 ○自分の担当の色紙をちぎる。 ○招待状のデザインを友達と話し合いながら、自分の役割の色紙を貼る。	・担当する色をグループで決め、一人一人の役割を明確にする。 ・担当の色以外は貼れないので、使いたい色があったら、担当の児童にお願いするようにさせる。 ◆保育園児に喜んでもらえるように、友達と協力して招待状を作ろうとしている。
	4 できた招待状を発表する。	☆一人一人の役割を意図的に設定することで、グループ内で自分が役に立ったという成就感をもたせる。 【B関係の中での自己 ③貢献意欲】
ま と め	5 活動を振り返る。	・グループの中で活躍した人は誰かを、ワークシートの観点から全員を選ぶ。 ☆振り返りで、グループの中で活躍した人を話し合う中で、自分の役割を認められることができるようにする。 【B関係の中での自己 ②理解者の存在の気付き】

5 検証授業後の協議より

- ・全員が褒められる経験をする事ができた。
- ・自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点を活用することができた。
- ・役割が決まっていたので、話し合いがなかなか進まなかった。
- ・教科のねらいをはずさないで、自尊感情を高めることが重要である。ねらいと自尊感情を高める指導の留意点のバランスを取らなければならなかった。
- ・他者評価だけでなく、自己評価も取り入れる必要があった。
- ・イラストによって話し合い活動の様相が変わるので、イラストの選択を吟味する必要があった。

6 自己評価シートの変化

表 4 検証授業②の自己評価シート回答結果

項目	事前	事後
A 自己評価・自己受容	3. 02	3. 03
B 関係の中での自己	3. 31	3. 29
C 自己主張・自己決定	3. 10	3. 23

(数値：学級平均)

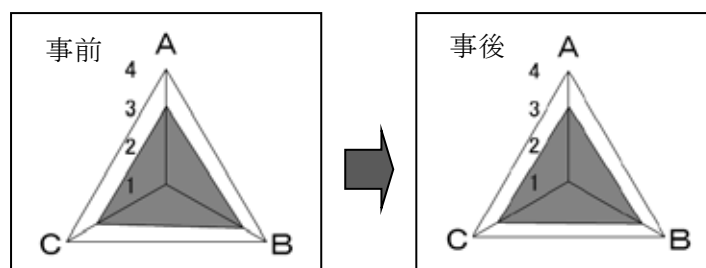


図 3 検証授業②のレーダーチャート

表 5 検証授業②の【B関係の中での自己】に関する回答結果

【B関係の中での自己】に関する項目	事前	事後
問 2 人の意見を素直に聞くことができる	3. 4 5	3. 5 9
問 5 私は人のために力を尽くしたい	3. 5 0	3. 5 5
問 8 私はほかの人の気持ちになることができる	2. 9 5	3. 0 0
問 1 4 人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任をもって取り組む	3. 0 9	3. 0 9
問 1 7 自分のことを見守ってくれている周りの人に感謝している	3. 6 8	3. 6 4
問 2 0 私には自分のことを必要としてくれる人がいる	3. 3 6	3. 3 2

(数値：学級平均)

◆「自尊感情測定尺度（東京都版）『自己評価シート』」の活用の仕方について

問 1 から問 22 の全ての質問項目の回答を測定しているが、**検証授業②**、**検証授業③**、**検証授業④**については、別途、質問項目を抽出して比較した。

7 児童の変容

- ・「人の意見を素直に聞くことができる」の項目が増加しており、温かい言葉掛けを意識することで、安心して友達同士のコミュニケーションを取ることができるようになったと考えられる。また、他教科でも「ほめほめ名人を見付けよう」など、友達のためにしたことが褒められるという経験をする活動を繰り返し行った。その結果、日常の場面でも

友達同士での温かい言葉掛けが増え、友達の意見を素直に聞く姿勢につながったと考えられる。

- ・「私は人のために力を尽くしたい」の項目は微増だった。もともと高い数値の項目だったので、本授業や通年行ってきた取組が数値を高く維持させていると考えられる。
- ・【B関係の中での自己】の平均が事前と事後で、1.86 から 2.71 にポイントが上昇した児童がいた。上記の自分のよさや友達のよさに気付かせる活動を繰り返したことで、自尊感情が高まったと考えられる。

8 資料（ワークシート）

ふいかえり かあと		はん
ぽかぽか めいじん		
いいかんがえ めいじん		
ききじょうず めいじん		
おはなしじょうず めいじん		
はりはり めいじん		
ちぎり めいじん		

振り返りの時間に班で話し合い、それぞれの項目で活躍した人の名前シールを貼る。

1 単元名 体づくり運動「多様な動きをつくる運動」

2 単元の目標

- ・動きを工夫する中で、体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることができるようにする。

(運動)

- ・運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(態度)

- ・多様な動きをつくる運動の仕方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れることができるようにする。(思考・判断)

3 研究主題との関連

(1) 児童の実態

7月に実施した「自尊感情測定尺度(東京都版)『自己評価シート』」において、本学級は全体的には【A自己評価・自己受容】(3.33)、【B関係の中での自己】(3.59)、【C自己主張・自己決定】(3.49)のどの項目においても3.0を超える数値が出ている。このことからある程度この集団や今の自分に満足していることがうかがえる。しかし、バランスを見ると、【A自己評価・自己受容】がほかと比べて低い傾向にある。

また、本単元は、「いじめ防止教育プログラム」中学年第2時、『自分らしさ』と友達の『その人らしさ』を探そう」を学習した後に行う。そのため、本単元においても自分のがんばりを認めつつ、友達のよいところを見付け、認め合い、自分に取り入れていく活動を取り入れる。体づくり運動はこの活動に適している。そして、【A自己評価・自己受容】を高めることにつながっていくと考えた。以上のことから、本単元においては、【A自己評価・自己受容】を中心に高めることを目指す。

(2) 具体的な手だて

ア 学習過程の工夫

年間学習計画に数多くの動きを設定することで、いつでも新しい動きに取り組めるようにした。このことにより動きに挑戦する意欲が高まり、【A自己評価・自己受容 ③努力の評価】が高められるようにした。

イ 動きのポイントの明確化

動きのポイントを明確にして児童同士がよい動きを見付けられるようにした。これによって即興のグループであってもよい動きを認め合ったり、動きを取り入れてまねしたりできるようにした。このことにより【A自己評価・自己受容 ②相互理解】が高められるようにした。

ウ 学習カードの工夫

学習カードに自分のよかったところや動き、友達のよかったところや動きを記録していけるようにした。これを毎時間の振り返りなどで発表し、共有していくことで【B関係の中での自己 ①他者理解、②理解者の存在の気付き】が高められるようにした。

エ グループ編成の工夫

体づくり運動は特別な技能を必要とせず、それぞれの動きを楽しめる運動である。そのため、本単元においては生活班でグループ編成した。いつも一緒にいるメンバーでグループを作ったことにより、活発に運動の交流や言葉の掛け合いができると考えた。

4 本時の学習（18 時間扱いの 11 時間目） 動きに取り組む時間

（1）体育科としてのねらい

- ・基本的な動きを組み合わせた動きができるようにする。
- ・用具の使い方や運動の行い方のきまりを守り友達と励まし合って運動できるようにする。
- ・運動の仕方を知るとともに、友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れたり、動きを選んだりすることができるようにする。

（2）研究のねらい

- ・友達のよさや努力を称賛したり、自分の頑張りを認めてくれたりする人がいることに気付く。

（3）本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点
導 入	1 本時のめあての確認をする。 ・学習の見通しをもち、めあての確認をする。 いろいろな動きができるようになろう	・学習の流れを提示しておく。
	2 準備運動を行う。	
展 開	3 基本的な動きを組み合わせた運動に取り組む。 ○「ものをもちながら歩く動き」を行う。 ・ものをかついで歩く。 ・ものをかついで、ジャンケンすごろくに取り組む。	・工夫する視点「姿勢」、「移動」を示しておく。 ・勝っても負けても次に進み、何度も繰り返し行えるようにルールを設定する。
	4 基本的な動きを組み合わせた運動に取り組む。 ○輪を回しながら移動する。	・動きの工夫の「姿勢」、「移動」のポイントが分かるように指導する。 ・工夫する視点「姿勢」、「移動」を示しておく。
	5 基本的な動きを組み合わせた運動を 3 つのコーナーから 1 つ選択して取り組む。〈前半〉 〈カルタコーナー〉 ・カルタを引いて姿勢・移動を変えて進む。 〈遠く遠くコーナー〉 ・進む距離や条件を変えて進む。 〈コースコーナー〉 ・細道やジグザグなどのコースを進む。	・動きの工夫の「姿勢」、「移動」のポイントが分かるように指導する。 ☆ポイントを押さえた動きができていく児童を、児童同士で称賛していくことで、互いのよさを認め合えるようにする。 【A自己評価・自己受容 ③努力の評価】
	6 基本的な動きを組み合わせた運動を 3 つのコーナーから 1 つ選択して取り組む。〈後半〉	☆お互いができるようにこつを教え合い、動きができていく友達のまねをすることで、できるようになったことや努力して取り組んだことを認め合えるようにする。 【A自己評価・自己受容 ②相互理解】 ・3つの場に共通したポイントとなる

展 開		動きを児童の動きから取り上げる。 ・体の基本的な動きが身に付くように いろいろな動きに取り組ませる。 ◆運動の行い方や運動のポイントを知り、取り組んでいる。
ま と め	7 整理運動を行う。 8 学習の振り返りを行う。 ○学習カードに記入し、振り返った内容を発表する。	☆学習中の児童のよさを紹介し、称賛することで、友達の努力や自分の頑張りを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。 【B関係の中での自己 ①他者理解、②理解者の存在の気付き】

5 検証授業後の協議より

- ・児童がお互いのよい動きを見付け、取り入れながら学習ができた。
- ・動きのこつを教え合ったり、動きをまねし合ったりできたことで、児童同士が関わり合いながら学習できた。
- ・友達の頑張る姿やよい動きを学習カードに書き込み、交流したことで、他者理解や理解者の存在の気付きが深まり、次の学習への意欲や、友達のよい動きや頑張りを見付けようとする意識が高まった。
- ・よい動きを見付け、取り入れることはできたが、全体に広める時間の確保ができず個々の活動にとどまった。よい動きやよい動きをしている児童を全体に広める工夫が必要である。
- ・学習カードに児童の気付きがたくさん書き込まれていたが、交流が不十分だった。掲示するなど交流の工夫が必要である。
- ・自分の運動に集中するあまり、あまり関わりをもたない児童が見られた。周りの友達に意識を向けさせる工夫が必要である。

6 自己評価シートの変化

表6 検証授業③の自己評価シート回答結果

項目	事前	事後
A 自己評価・自己受容	3. 33	3. 17
B 関係の中での自己	3. 59	3. 41
C 自己主張・自己決定	3. 49	3. 24

(数値：学級平均)

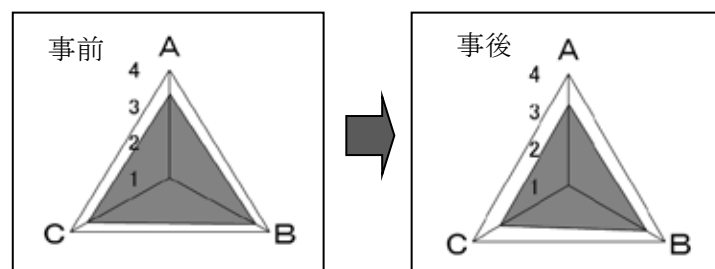


図4 検証授業③のレーダーチャート

表7 検証授業③の【A自己評価・自己受容】に関する回答結果

【A自己評価・自己受容】に関する項目	事前	事後
問1 私は今の自分に満足している	3. 44	3. 12
問4 私は自分のことが好きである	3. 28	3. 48
問10 私は自分という存在を大切に思える	3. 76	3. 52
問16 自分には良いところがある	3. 68	3. 48
問19 自分は誰の役にも立っていないと思う	2. 92	3. 12
問22 私は人と同じくらい価値のある人間である	3. 44	3. 24

※問19は反転項目のため、数値は反転処理。

(数値：学級平均)

7 児童の変容


- ・平均で 3.0 を超える数値を維持しているが、数値の伸びは見られなかった。大きく数値が伸びた児童も見られたが、半数近い児童は数値が微減している。数値に伸びは見られなかったものの、学級として安定した A B C の三角形を形成している。
- ・問 4 については、0.2 ポイント上昇した。学習を進めていく中で、自分のことが好きになったことが考えられる。
- ・問 19 については、0.2 ポイント上昇した。本単元においては自分の考えた動きを友達がまねしていたり、アドバイスして感謝されたりしたことが要因の一つと考えられる。また、日常生活においても全員で取り組み、成果につながったことなどがポイントの上昇につながったと考えられる。
- ・学習の振り返りにおいて、「がんばったこと」「できるようになったこと」を具体的に書けるようになってきた。
- ・同じテーマで調べてきた事柄について、それぞれの考え方を受け入れ、まとめられるようになった。
- ・「ドンマイ」「それでいいよ」の声が増え、思い切って活動に取り組めるようになってきている。

8 資料 ・学習カード（2 時間同じ動きを行う。見開きで 2 時間分）

(1) 月 日 () 名前

学習のめあて

いろいろな動きができるようになろう



うくぼくをのぼったいはいする動き

輪を投げ上げ 移動してとる動き

〈輪を投げ上げて移動してとる動き〉
 遠く遠くコーナー：輪を投げてからなるべく遠くまで行ってとってみよう
 カルタコーナー：いろいろな投げ方と移動の仕方を組み合わせてみよう
 くるくるコーナー：輪を投げてからくるくるゾーンでとってみよう

①いろいろな動きができた。	😊😊😊😊😊
②楽しく学習できた。	😊😊😊😊😊
③友だちのよい動きを見つけることができた。	😊😊😊😊😊


がんばったこと、見つけたこと、友だちの動きのよかったところ、友だちのまねをしてみてもいいよ など

フェイススケールで自己評価する。

(2) 月 日 () 名前

学習のめあて

いろいろな動きができるようになろう



うくぼくをのぼったいはいする動き

移動してとる動き

〈輪を投げ上げて移動してとる動き〉 * 輪を二つ選んで○をつけためあてを書き出す

遠く遠くコーナー：
カルタコーナー：
くるくるコーナー：

2 時間目に選択したコーナーのめあてを書き込む。

①自分のめあての動きができた。	😊😊😊😊😊
②進んで学習できた。	😊😊😊😊😊
③友だちと教え合えてできた。	😊😊😊😊😊

がんばったこと、見つけたこと、友だちの動きのよかったところ、友だちのまねをしてみてもいいよ など を、具体的に書こう。

主題に迫る手だて (3) に関わる部分。学習感想を記述する。

第6学年 学級活動指導案

1 領域・単元名 学級活動（2）ーウ 望ましい人間関係の形成

「卒業に向けてよりよい学級にするために」

2 目標

望ましい人間関係に基づき、集団の一員として学校や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

3 研究主題との関連

（1）児童の実態

7月に実施した「自尊感情測定尺度（東京都版）『自己評価シート』」において、本学級の数値は【A自己評価・自己受容】（3.26）、【B関係の中での自己】（3.39）、【C自己主張・自己決定】（3.20）という結果となった。もともと男女仲のよいクラスであり、リーダー的児童のもとにある程度まとまることができているが、この自尊感情測定尺度の数値から本学級では【C自己主張・自己決定】のポイントが低いことが分かった。そこで今回は日々の実践で【B関係の中での自己①他者理解】を深めていきながら、クラスの友達の考えを受容できる雰囲気づくりをさらに進め、自分の考えをしっかりと主張できる力を高めようと考えた。

（2）具体的な手だて

ア 学習過程の工夫

今回は「いじめ防止教育プログラム」を利用して行う授業の第3段階となる。第1段階では「いじめを傍観しない基盤づくり」の「いじめのない楽しいクラスをつくろう」を6月に実施した。そして、第2段階では「いじめを生まないための互いの個性の理解」として友達のよいところ探しを帰りの会に日々行い【B関係の中での自己 ①他者理解】を意識してきた。今回は第3段階として「いじめを生まない望ましい人間関係の構築」の授業である。児童の実態に合わせて段階的にまた継続して授業を行うことで、より主題に迫ることができると考えた。

イ 話合いのルールの明確化

話合いのルールについて「友達の意見を否定、批判せずに受け入れる」「じゃんけんや多数決で決めない」とした。相手の意見を肯定的に認め合い、自分の考えを発表しやすい場にする事で【C自己主張・自己決定 ②個性の認知】が高められるようにした。

ウ 教材の工夫

話合いに「いいね！」シールを用意した。友達から「同じ意見だよ」「違う意見だけどそれもあるね」という意思表示を可視化させたシールを貼ってもらうことで【B関係の中での自己 ①他者理解】を深めるとともに、自己受容も高められるようにした。

4 本時の学習

（1）学級活動としてのねらい

・互いの意見を認め合い大切にしながら話合いをすることで、他者理解を深めることができるようにする。

(2) 研究のねらい

- ・友達に認めてもらった自分の考えについて、自信をもって主張できるようにする。

(3) 本時の展開

	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点
導入	1 本時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤモンド・ランキングについて確認する。
	2 各自で順位を付けカードをワークシートに貼り、理由を記入する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「卒業に向けもっとよいクラスにするために」 ～ダイヤモンドランキングをしよう～ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような順位にしたのかを説明できるようにワークシートに記入する。
展開	3 本時のめあてとルールを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを板書し確認する。
	4 各自のカードの位置付けについて理由を説明した後、グループ内でカードの順位を話し合って決める。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 他の人の意見を大切にしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ・他の人の考えを批判しない。 ・じゃんけんや多数決ではなくみんなの合意のもとに決める。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを確認し、「いいね！」シールについての説明をする。同意する意見や自分と違うけど「それもあるね」と思う意見にはシールを貼ってよいことを伝える。 ☆友達意見を聞きながら、ワークシートのランキングに「いいね！」シールを貼り認め合いを可視化させる。【B関係の中での自己 ①他者理解】 ◆グループの他の人の意見を大切にしながら話し合いをしている。
	5 グループごとに合意したカードの位置付けるとともに、その理由を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの価値付け及びその理由を自分のグループと比べながら聞かせる。 ☆班の友達に認めてもらった自分の考えに自信をもって主張するよう促す。【C自己主張自己決定 ②個性の認知】
まとめ	6 活動を振り返り、各自が感じたことをワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループや友達との意見、考えの違いについて思ったことを記入させる。 ◆自分と違った価値付けや考えに気づき、友達の意見を認めている。

5 検証授業後の協議より

- ・話し合いのルールを決めることで、友達の意見を受け入れようとする姿勢が見られた。
- ・はじめに自分でランキングを考えることで、班での話し合いにも自分の意見が出せた。

- 「いいねシール」を貼るときにひと声かけることで、認め合いの雰囲気が作られていた。
- ・高学年であったとしても「いいねシール」を貼ってもらう時は、嬉しそうであった。
 - ・活発に話合いができていた背景には普段の学級経営や段階を踏んだ授業の実施があった。
 - ・時間が足りずに話合いが途中で終わってしまった班も見られたので、時間を確保してじっくり話合えるようにする必要がある。
 - ・このようなお互いの意見を認め合う話合いの活動は、繰り返し行くと効果的である。同じ手法を繰り返すだけでなく、他の活動も取り入れていきたい。
 - ・本時は普段の生活班を重視したため、5人の班が3つあったが、話合いは3～4人が話しやすいのではないかと考えた。実態に合わせ、よく検討する必要がある。

6 自己評価シートの変化

表8 検証授業④の自己評価シート回答結果

項目	事前	事後
A 自己評価・自己受容	3. 26	3. 20
B 関係の中での自己	3. 39	3. 57
C 自己主張・自己決定	3. 20	3. 25

(数値：学級平均)

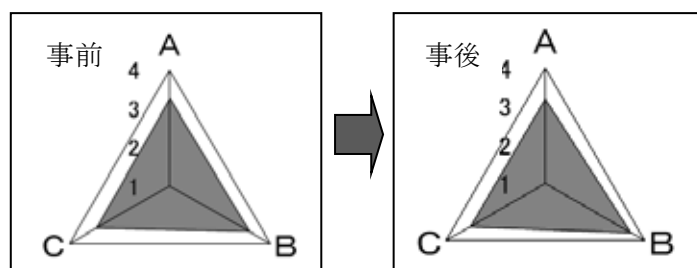


図5 検証授業④のレーダーチャート

表9 検証授業④の【B関係の中での自己】【C自己主張・自己決定】に関する回答結果

【B関係の中での自己】に関する項目		事前	事後
問2	人の意見を素直に聞くことができる	3. 5 2	3. 5 6
問5	私は人のために力を尽くしたい	3. 3 9	3. 5 6
問11	私には自分のことを理解してくれる人がある	3. 4 7	3. 8 2
問17	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	3. 4 7	3. 8 6
【C自己主張・自己決定】に関する項目		事前	事後
問3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	2. 9 1	3. 0 4
問6	自分の中には様々な可能性がある	3. 1 3	3. 2 1
問9	私は自分の判断や行動を信じることができる	3. 1 7	3. 2 6

(数値：学級平均)

7 児童の変容

- ・問11、問17の項は他より大きい伸びが見られた。いずれも【B関係の中での自己】の項目であり、手だてとして行っていた日々のよいところ探しなどの実践により、他者への理解、感謝についての意識が高まったと考えられる。
- ・問2、問5の項目も伸びが見られた。認め合いや貢献意欲の意識を高めることで、日々の生活の中で困っている友達に声を掛けたり仕事を手伝う場面も多くなり、それに対して「ありがとう」と素直に言葉を返す児童が増えた。
- ・年度当初の調査では【C自己主張・自己決定】の数値が他に比べて低かったが、事後の

調査では問3、問9のポイントが増加している。本授業の取組で、考えが違う友達の意見を否定せずに受け入れるルールが定着し、グループの友達に認められる経験を多く積んだことにより、自信をもって発言する姿が見られるようになった。

8 資料

本時のワークシート

テーマ「卒業に向けもっとよいクラスにするために」についての単語カード

「おはよう」などあいさつをし つかりする	何かしてもらっ たら「ありがと う」という	係の仕事や当番 活動を進んで行 う	友達のよいところや行いを見つ け発表する	教室内やロッカ ーの整理整とん を心がける
男女関係なく話 しかけたり接し たりする	班長や日直のい うことをよく聞 く	友達が間違えたり失敗したらは げましたりする	仲間外れをつくら ず一人である 人に声をかける	

卒業に向けてよりよい学級にするために

いいね！
いいね！
いいね！

友達が困っていたら声をかけたり、はげましたりする ①

何かしてもらったら「ありがとう」という。 ②

仲間外れをつくらず一人である人に声をかける ③

友達のよいところや行いを見つけ発表する ④

「おはよう」「さようなら」というあいさつをしつかりする ⑤

男女関係なく話しかけたり接したりする ⑥

係の仕事や当番活動を進んで行う ⑦

休み時間は外に出てみんなであそぶ ⑧

班長や日直のいうことをよく聞く ⑨

とても大切

なぜこの順番にしたのですか。

1.2...「よりよいクラスにする」ためには、1人の人をつくらず、協力することが大切

2.3...あいさつ、おれを言い、それが伝まると、クラス内が自然に仲よくなるのでは

今日の授業の感想。(めあて、話し合いについて)

A いいチャールがあったことにより、「イヤネ」というので、こうしたらわかりやすいのかなどを考えた発言できた。人が発表しおれと相手してくれらるの、で、か。みんなの意見をきいてから、いろいろな考えがでてきてよい話し合いになったと思いました。みんなが意見を批判しないので、おもいきって発言できた。

B 最初はみんなちがうところがあったけど、一人一人が意見をい、てい、みんなな、とくして、あ、対立せずにみんな合意の上でま、た、のでよかったです。

C ・人それぞれ考えがあり私は結構他の友達の意見に納得する事がありました。対立する事もあったけれど、うまくまとめる事ができて良かった。

大切

ダイヤモンドランキングについては「いじめ防止教育プログラム」(P47)を参照して行った。また「人権教育プログラム(学校教育編)平成25年3月」(P32)にも掲載されている。

V 研究の成果と課題

1 いじめ問題に対応できる力を育てるために

いじめ防止のための「学習プログラム」の実践を通して、児童・生徒は、自分の存在や価値を認める学習機会が増え、いじめ問題に対応できる力が養われてきた。

「いじめ総合対策」（平成 26 年 7 月 10 日 東京都教育委員会）では、いじめ問題への対応に当たって「教員の指導力の向上と組織的対応」「いじめを見て見ぬふりせず、声をあげる学校づくり」について、念頭に置くことがポイントにあげられている。また、「いじめに関する授業」について、年に最低 3 回実施することが定められている。各所属校において、道徳の時間や特別活動等において積極的に実施してきた。

いじめ問題に対する基本的な考え方である「学習プログラム」は、年間を通して、組織的・計画的に指導を積み重ねていくことが必要である。いじめ防止のための「学習プログラム」を実施した成果については、校内研修会等を通して、今後とも積極的に還元していきたい。いじめ問題の未然防止及び早期発見・早期対応に対しては、教員一人一人が意識を高め、いじめ問題への対応力を身に付ける必要がある。いじめ問題解決のための「教員研修プログラム」の活用や事例検討を行っていききたい。

2 児童・生徒の自尊感情を高めるために

「自尊感情測定尺度」（東京都版）を活用し、児童・生徒の自尊感情の実態を客観的に捉えて、グループ編成や個に応じた指導などの手だてを講じた。その結果、個や集団における自尊感情のタイプ別の傾向や特徴を知り、自尊感情測定尺度の数値を示した席次表を作成した。そのことにより、個別の実態を把握し、効果的な机間指導や客観的な評価ができるようになった。

また、特別活動、道徳、国語科、生活科、体育科等では、自尊感情に関して児童・生徒個人の課題を明確にし、教科等のねらいに即しながら自尊感情や自己肯定感を高めるための指導計画を立てることができた。その際、自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点を押さえ、指導の充実に向けた授業実践を積み重ねることができた。

これまで以上に、教師が受容的な言葉掛けをする中で、児童・生徒同士の教え合いや励まし合う姿が増えた。検証授業を行った教科・領域以外でも、ねらいを踏まえつつ、教科の特性に応じた自尊感情を高めるための指導の充実を図っていききたい。

以上のことを踏まえ、一人一人の自尊感情を高めることで、よりよい人間関係が築かれ、いじめ問題に対応できる学級・学校づくりにつながった。

3 教育研究員として学んだこと

本研究を通して、日常の授業の中で、自尊感情を高めることを意識して授業を実施することで、子供同士のつながりに広がりを見ることができた。また、見通しをもった研究への取組や仮説の検証の方法等を学ぶことで、教科を横断した指導方法の基盤となる内容を習得することができた。

「自尊感情測定尺度」やデータを活用することで、児童・生徒の個性をより細やかに見取ることができるようになった。今後とも、教育研究委員で培った経験や識見を生かし、教育課題の解決に向け積極的に取り組んでいきたい。

平成26年度 教育研究員名簿

小・中 学 校 ・ 教 育 課 題

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
千 代 田 区	九 段 小 学 校	主任教諭	松宮代史子
台 東 区	黒 門 小 学 校	主幹教諭	池田 直亮
墨 田 区	言 問 小 学 校	主任教諭	○富永 央星
豊 島 区	朋 有 小 学 校	主任教諭	増田 大輔
葛 飾 区	中 之 台 小 学 校	教 諭	山中 真岐
町 田 市	南 第 四 小 学 校	主任教諭	◎川井 弾
町 田 市	南 大 谷 小 学 校	主任教諭	塩畑麻由美
町 田 市	図 師 小 学 校	教 諭	橋本 彩
国 分 寺 市	第 四 小 学 校	主任教諭	○福澤 真吾
東久留米市	第 三 小 学 校	主任教諭	黒須真理子
文 京 区	第 十 中 学 校	主幹教諭	市原 一
江 東 区	第 二 南 砂 中 学 校	主幹養護 教 諭	内山 愛

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 岩崎 公慈

指導主事 西牧 桂

平成 2 6 年度
教育研究員研究報告書

小・中学校・教育課題

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 2 6 年度第 1 8 6 号〕
平成 2 7 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電 話 番 号 (0 3) 5 3 2 0 - 6 8 4 9
印 刷 会 社 正和商事株式会社